
笑いながら走った

ユーヨ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑いながら走った

【Nコード】

N4823C

【作者名】

ユーヨ

【あらすじ】

罵倒女と馬鹿男の、馬鹿な話。「防弾だろうが強化だろうが繊細なんだよ!」

「死ね死ね、死んじまえ！お前なんて死んでしまええ！」

と、この女に何度言われた事か。最初のうちは、応戦して「うつせえ！」とか「しつこいんだよおお！このクソガキがああ！」等と言葉の砲煙弾雨を繰り広げていたが、最近は面倒になってきたので、「なんでそんなひどい事毎日言うんだよ？俺はなあ、ぶっ壊れやすいガラスのよーな心の持ち主なんだよ。そんな事ばかり言ってる、すぐにでも俺の心が崩壊して廃人になるぞ！」

なんて質すと

「防弾ガラスだろ」

そう冷笑しながら言っただけ俺の繊細な心に傷をつける。

「防弾ガラスでも強化ガラスでも繊細なの！ガラスってのは何でも繊細なの！」

「繊細じゃねーよ。銃弾くらっても平気な顔してんじゃねーかよ、奴等は」

「うつせえ！言うんじゃねーよ！頑張ってるの、彼等は！」
まあ最終的には、言い争ってしまっただけ。しかも毎回妙な敗北感までついてくる。

そこで今回は思慮を凝らして、驚かす作戦を決行した。

パンッ、と軽い音がして背中に痛みが走る。

「痛ってええ！何すんだよいきなり！」

「防弾ガラスだろ」

ガキの手にはエアガンが握られている。顔には笑みが浮かんでいる。本当に死んでほしいと思ってしまった。

だが、作戦を遂行させるために、怒らずに真摯な顔つきで言う。

「実は今まで黙っていた事があるんだが……」

「何？」

びつくりさせてやる。驚かしやる。だが、またそのエアーガンで俺を狙撃するそんな事があつたなら、今日こそ殴ってやる。モンゴリアンチョップを炸裂させてやる。

「実は前からお前の事が好きだった!……」
虚実を吐く。

「……本当?」

「ああ、本当だ!お前、Love!うおお!」

虚実を吐きながら突進。腰あたりに抱きつきながら倒れ込む。
「……!」

手首を掴んで自由を奪うてこない。妙にしおらしい。おかしい。俺の目をじつと見つめて動かない。頬が紅潮している。まるで、俺を受け入れているようだ。

「……別にいいよ……痛くしないでね……」

俺はにやつきながら、

「いいのか?やっても?」

「……いいよ」

拘束していた手首を放したがやはり抵抗はしなかった。俺はさらににやつきながら、己の両手を空にかかげて思いつきりに、

「痛!??」

クソガキの鎖骨にめがけて打ち下ろす。

「気持ち悪いんだよ!何が『……いいよ』だよ!気持ち悪!」

「……このお、馬鹿ああ!」

逃走する俺の背中にBB弾がヒットしまくるが、今日は初めて勝利した気分になった。

痛かったが、笑いながら走っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4823c/>

笑いながら走った

2010年12月29日02時01分発行